

船井情報科学振興財団 海外留学奨学事業  
第四回ポスドク報告書

2015 年度奨学生の小林です。就職先が決まりました。

## 1 就活の話

2023 年 7 月より、University of Michigan にて研究室を立ち上げます (<https://sites.google.com/umich.edu/kobayashi-lab>)。所属は Department of Chemistry です。就活では 5 つの大学を訪問しましたが、U-M は研究・生活環境ともにトップクラスであり、自身の研究テーマとのマッチングも良く、最良と言える結果になりました。

Chemistry の就活の流れはおよそ以下の通りです。8 月から公募の情報が始め、10-11 月が書類の提出期限です。11-12 月にオンラインのインタビューがあり、12-2 月に on-site のインタビューがあります。口頭でのオファーは全候補者のインタビューが終了してから数週間後、大体 1-3 月に出ます。その後は研究資金やラボスペースの交渉、配偶者を連れて大学と街を見学する second visit などがあり、オファーレターにサインするのは 3-5 月になります。U-M はインタビューの過程が非常に早く、自分は 12 月の初めに口頭でオファーを頂きました。そして 4 月にオファーレターへサインし、採用が正式に決まりました。

US トップ 20 の大学のうち、私の専門である physical chemistry を対象とした公募があったのは 5 校です。Chemistry には複数の sub divisions があり (organic, inorganic, physical, bio, materials, theoretical, analytical, environmental, education, etc)、およそ 20% 弱が physical の公募になるので、平均的な数だと思います。その 5 校のポジションに、US トップ 20 の各大学から 1-3 人ポスドクが出願するとすれば、おそよの競争倍率の見当がつくと思います。今年のジョブマーケットにはちょうどトップジャーナルに論文を出した人、Google Scholar の引用数が数千を超えている人、物理出身のライジングスターなどがおり、実際熾烈な競争でした。結局誰も雇わなかった大学、出身校ゆえ応募できなかった大学、タイミングが合わなかった大学などもあり、こうしてオファーを頂けたのは奇跡です。

U-M の研究環境は US でも最高クラスです。まず大学の endowment は \$12B であり (全米 10 位)、これは University of California 全体の合計より大きな数字です。世界大学ランキングはどの指標でも安定して 25 位以内をとっており、優秀な人材を集めるに事欠きません。大学の気風は liberal かつ progressive です。例えば Ivy schools がユダヤ系の学生の受け入れを制限していた時代に、U-M は差別をせず東海岸の学生を広く受け入れていたという歴史があります。実際就活では様々なレベルの大学を訪問しましたが、U-M の環境は Berkeley や Stanford と肩を並べるものでした。

また生活環境も素晴らしく、まず Ann Arbor という街が非常に文化的かつ安全で、定住の場所として理想的です。日本人コミュニティや補習校も近隣の町 Novi にあります (トヨタを始めとする自動車産業に関連しています)。U-M の病院は日本語での医療を提供しており、非常時に心強いです。最寄りの空港 (Detroit Metro Airport) は日本への直行便もある大型国際空港であり、交通の便も良いです。住宅も中西部としては高価な方で

すが、カリフォルニアよりは安いので、近いうちに家も買えそうです。総合して Ann Arbor は mid-career の自分たちにとってバランスの取れた街であり、楽しく暮らせそうです。

## 2 生活の話

現在は主に Stanford での研究のまとめと、U-M での研究室立ち上げの準備をしています。レーザー装置の購入、真空装置の設計、研究室内の改装準備、そして学生の勧誘など、やることが山積みです。グリーンカードは無事取得できました (一年半かかりました)。ようやく腰を据えた人生設計ができるのが嬉しいです。ベイエリアでの残りの時間有意義に過ごしたいと思います。

以上ご報告と致します。



Figure 1: インタビュー当日。ホテルの窓から見るミシガン大学のベルタワー。



Figure 2: Go Blue!